



ガハテ村通信

篠山ナマステ会 事務局 〒669-2341 篠山市郡家61-1 振替口座 00930-6-29629

SSS奨学金制度に支援開始

今年度、19人の女生徒に



奨学金を受けた女子生徒たちとガハテ村の代表たち

篠山ナマステ会は、セティ
ディビ小学校の卒業生が中等
教育で学ぶ機会を得られるよ
う、カウンタートパート・SS
Sの奨学金制度を支援するこ
とを決定し、平成23年度分と
して4万円を送金しました。

ネパールでは、小学校は政
府補助等で就学費用はほとん
どかかりません。しかし、中
学・高校になると授業料を始
め教科書や学用品などでかな
りの費用がかかります。そこ
で、進学を希望しながら経済
的理由で断念することのない
よう、支援を決めました。

6月にセ小やガハテ村の代
表、SSSメンバーらで会議
を開き、現在中等学校で学ぶ
19人の女子生徒に、奨学金と
してカバンや学用品などを現
物支給することを決定しまし
た。

2011年スタディツアー報告

篠山ナマステ会は七月二十八日から八月六日までの日程で、PHD協会とネパールスタディツアーを実施しました。来年度のPHD研修生を選考し、ビシヨさんから元研修生にも会い、帰国後の様子にふれました。ツアーについて報告します。

カトマンズで暮らすビシヨさん

ネパール到着後、スタディツアー本隊は例年通りポカラのラダさんやサビトリさんらの活動視察に向かいましたが、当会上田和夫副代表とPHD協会研修担当の坂西卓郎さんの二人は、カトマンズでビシヨさんを訪ねました。

ビシヨさんのお母さんがカトマンズで野菜販売をされており、六畳ほどのアパートを借りています。そこでビシヨさんは妹、弟の四人で暮らしているそうです。バイク免許を取るため、インターネットカフェのアルバイトでお金を貯めているとのことでした。

カトマンズにはビシヨさんの他にもガハテ村出身者が住んでいて、かつて日本にもあった「頼母子講」のようなグループを作っています。元七小の校長であったワイバ氏もメンバーの一人です。メンバー間の助け合いだけでなく、ガハテ村のためにグループでお金を貯めているそうで、SSSの奨学金の原資にもなっているとのことでした。

植樹したオレンジのその後

昨年八月のスタディツアーで、交流十周年を記念

して植樹しました。ビシヨさんたつての希望でオレンジの苗木を植えたのですが、その後どうなったのでしょうか。今回のツアーまでに、現地からの情報はありませんでした。

ビシヨさんによると、植樹した後すぐネパールは乾季を迎え、苗木の生育は思わしくなかったそうです。また、当会への連絡を通信員のビシユヌマニ・ネパールさんに文書で依頼したそうですが、「ビシヨさんが個人でやっているオレンジ栽培は通信の範囲外」との返答だったそう。篠山ナマステ会としては、村の共同事業になることを期待していましたが、残念ながらSSSからはビシヨさん個人の取り組みと見られていたようです。

この様な状況を受けSSSに対し、元PHD研修生の活動が当会の活動と密接に関連していることを伝え、彼等の活動や現状について情報を提供するよう要請しました。この要請の後、ビシユヌマニさんからはビシヨさんのことを含めて、元PHD研修生についての情報が入るようになっていきます。



成長し始めたオレンジの苗木とビシヨさん

来年の雨季までには30本植樹

元気のなかったオレンジの苗木ですが、今年四月になって雨季になると、急に元気になって新芽が伸

びてきたといえます。オレンジ同様、ビシヨさんも村づくりで壁にぶつかって元気をなくし、カトマンズへ出てきたのかもしれない。しかし、上田副代表から「若い時にしかできないこともあるから、バイクの免許を取るのもいい。でも、自分で始めた協同組合の仕事とオレンジ栽培は手を抜かず責任を持つように。君はガハテ村の将来を託す大切な人なのだから」と叱咤激励を受け、再びやる気を取り戻したようです。後日、ビシヨさんから日本語で書かれた次のようなEメールが当会事務局に届きました。

「この一年の間、ガハテ村の農業や組合のこと何も連絡しなかった。本当にごめんさい。あと、今年も三十本オレンジの苗木植えたかったけど、四月まで元気なかったの、この自然はよくないかと考えました。でも、雨季には元気になりました。だから、来年からは続けていきます。」

今、私はカトマンズにいます。でも、いつも村のために考えます。街に住んでるガハテ村のグループと、村の組合を頑張っ行って行きたいです」

ミン・クマリさんは補助産師の勉強中

ミン・クマリさんは昨年度のPHD研修を通じ、命を守るためヘルスワーカー(保健師)になりたい、との思いを強くしてネパールに帰国しました。しばらくはガハテ村の自宅で家族と農作業をしていましたが、やはり専門的な勉強をしようとの決意。ネパールのNGO・BBPパリワールから奨学金を受け、カトマンズから一時間ほど離れたカブレ郡のパネパという街の保健専門学校・カブレ健康センターに入学しました。友人と二人でアパートを借り、現在は補助産師の勉強をしているそうです。

健康啓発で活躍するウルミラさん

ウルミラさんは、日本で学んだ知識と経験を活かし、SSSで健康プログラムの仕事をしています。自宅のあるジュデイ・ガオン村では、女性グループと子供クラブに対し、健康啓発プログラムの支援を行っているそうです。また、クンタ村のSSS事務所には分娩室があり、ウルミラさんも働いています。スタディツアー中の八月四日に出産があり、ウルミラさんが赤ちゃんを取り上げました。

セティデイビ小学校で理科実験

セティデイビ小学校では、児童や村人たちから大歓迎を受けました。歓迎式典の後、当会幹事の岸孝明さんが低学年の約四十人の児童に理科実験の授業をしました。「教訓カップ」を使ったサイフォンの原理の説明です。

紙コップに少量のジュースを入れて児童たちに飲んでもらい、「もつと飲みたい人は？」と手を上げさせます。今度は「教訓カップ」にたつぷり注ぐ。するとカップの中に見えないように仕組まれたサイフォンからジュースは流れ出してしまします。そこで、「欲張ってはいけない」ことを伝えるものです。児童たちは興味津々、目を輝かせながら実験の授業を受けてくれました。

来年度のPHD研修生2人決定

今回のツアーの目的のひとつが、来年度の研修生の選考でした。今回は十一人の応募者があり、一人ずつ面接を行い、各家庭への訪問も行いました。その結果、ともにガハテ村出身の二人を選抜しました。一人は女性のランマヤ・タマンさん（一九）。昨年の研修生、ミンク・マリ・タマンさんの友人です。



ランマヤさん



アッチャンマさん

現在、デイデイトウンカ・カレッジの十一年生です。両親、兄、弟の五人家族で、米、野菜、ジャガイモを栽培し、牛、山羊、鶏を飼っています。

もう一人は男性のアッチャンマ・ラマさん（一八）。今年の研修生、パッサン・ラマさんと一昨年の研修生、ビシヨジット・ラマ・タマンさんの友人です。セティデイビ小

学校出身で、デイデイトウンカ・カレッジ十年生を卒業しました。父、姉、弟の四人家族です。家はどうもろこし、ひえ、唐辛子、野菜の栽培と牛の飼育をしています。

二人はそれぞれ、ガハテ村では保健衛生や栄養、農業に関する知識が少なくないと問題意識を持ち、日本で勉強したいと希望しています。

SSS事務所改修に支援金

SSS事務所には、分婉室だけでなく炊事施設や簡易な宿泊施設、会議室などもあり、当会がセティデイビ小学校を訪問したり、SSSメンバーや教職員、村人と話し合ったりするときの拠点施設としても活用させてもらっています。この度SSSが事務所改修を計画しました。当会も交流の拠点としての、また村人の健康や出産を守るセンターとしての事務所改修を支援することを総会で決定いただきました。

スタディツアー後、改修支援金として六十万円を渡辺基金特別会計より支出しました。主としてトイレ・バスルームの改修、三階建事務所の各階をつなぐ安全な階段の改修等に活用されます。工事は十一月四日に着工したとのことで、四カ月後の完成予定です。

地域活動の報告

12月3日にスタディツアー報告会

篠山ナマステ会は十二月三日、篠山市民センターで今夏のスタディツアーの報告会を開きます。午後一時半開場、二時間開会です。

また、十二月三日から八日まで同センターで開かれている人権フェスタに合わせて、一階ギャラリィで写真展も開きます。ぜひご来場ください。

神戸のAMDA写真展に参加

アジア医師連絡協議会（AMDA）兵庫支部が十一月に神戸市で開いた、ネパールことも病院の写真展に篠山ナマステ会も活動紹介で参加しました。開校当初のセティデイビ小学校や、昨年の記念植樹の様子などを展示し、当会の活動をPRしました。

たんなん味覚まつりで黒豆販売

活動資金確保のため、十月十四、十五の両日、丹波たんなん味覚まつりで黒豆を販売しました。味間地区まちづくり協議会のご厚意で販売ブースやテントなどを無償提供いただき、幹事有志で袋詰めをして準備した三百十六袋を完売することができました。収益金は七六、一九二円になりました。ご協力、ありがとうございました。

今年度のPHD研修生、パッサン・ラマさんが八月十五日から九月二日、ラメシユ・シユレスタさんが十月二十六日から十一月四日まで、それぞれ篠山市内でホームステイをしながら研修を行いました。

パッサンさんの受け入れでお世話になった方に、研修の様子をお聞きしました。

パッサンさんの研修を受け入れて

酒造 早苗さん

「十日間で洋裁を」との依頼をお受けして、初めはとて不安でした。「いったい十日間で何ができるのだろうか?」と、心配はつきませんでした。彼女



ネパールで待つ娘を思ってか、幼児服の製作に力がこもるパッサンさん。

は日本語をしっかりと話し、ひらがなカタカナも書き、聡明で何事にも積極的に取り組む女性でした。

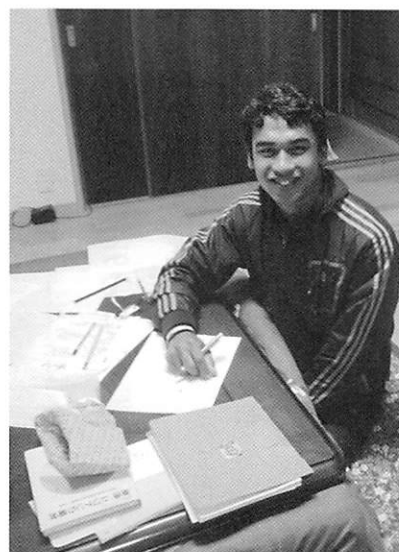
「村に帰ってみんなの役に立てなければ学ぶ意味がない」と、いつもとても意欲的に取り組み、短い期間でしたが、ズボン、スカート、シャツ、甚平、バッグまで、たくさん作品を作りました。大人用で学習し同じ形の幼児服で復習、という形で学習しましたが、しっかりと理解し、復習ではほとんど手直しの必要がなく、国で待つ子供を思ってたか「かわいいねえ」と、幼児服の製作は特に楽しそうでした。今回は洋裁のほんの入り口を学習したに過ぎませんが、作る楽しさを覚えた彼女ならきっとこの基礎の力を応用してどんどん腕をあげていくと信じています。

パッサンさんと過ごした日々

丹波篠山「マルチャン農園」

円谷 豊子・利行さん

マルチャン農園では、黒大豆と丹波大納言の畑の草敷きを中心に体験してもらいました。抱えきれないほどの草を抱え、運ぶ姿は二十歳の女性のイメージとは違って、それはそれはエネルギーが強いものでした。また、鎌を持って草を刈る手さばきも見事なものでした。私たちは、草刈り機や運搬機を使うことに慣れ、機械貧乏に陥ってしまっているのが、農業の原点を見たような気がしました。わが農園が取り入れている米ぬかともみ殻を使ったり、たばかし肥料や刈った草を畑に敷き肥料に変える循環型有機農業と、刈った草や米ぬかが牛や水牛の餌になるネパールの農業とは方法が大きく違いました。ネパールの環境にあった農業とはどんなものかを考えさせられました。



望んでいた養鶏研修を受けたラメシユさん

ラメシユさんは養鶏研修に手応え

ラメシユさんは篠山東雲高校、稲川農園、中末農園で野菜栽培や黒豆加工などの農業実習を行ったほか、EM菌による土作りの体験、水耕栽培や和寿園(老人ホーム)、農協、城東小学校の見学などを行いました。また、実家のヒングワパティ村で鶏を飼育していることから、養鶏について学びたいと強く希望していたため、養鶏研修も行いました。

ヒングワパティでは、養鶏農家は他にもいるそうです。しかし専門知識を持つ人がなく、病気がかかって死んでしまう鶏も多いことから、村の期待も背負って日本に來たといえます。今回の篠山研修中には、当会幹事の渡辺拓道さん宅で鶏がかかる病気や、病気を防ぐための餌やワクチン、温度管理や飼育スペースなど平飼いの具体的な方法などを学んだり、養鶏農家・富士牧場を見学したりしました。ラメシユさんは「養鶏について学びたいと思っていたのはこれだった」と大変満足したそうです。十二月には再度、篠山市で養鶏研修を行う予定になりました。